

まち会だより

'04

夏号

発行：特定非営利活動法人 調布まちづくりの会
〒182-0022 東京都調布市国領町 3-10-14 ・ TEL&FAX:0424-88-4022
e-mail : machikai@annie.ne.jp http://www.annie.ne.jp/~machikai/

vol. 13

通常総会 が開催されました

2004年6月19日(土)調布市総合福祉センターにおいて通常総会が開かれました。2003年度事業報告、決算報告、及び今年度事業計画、予算計画の各議案について活発な審議がおこなわれ、賛成多数で議決されました。

なお、先年度の総会において事業年度を10月1日～9月30日としたため、今年度4月1日～9月30日までを2003調整半年度と位置づけ、この期間の重点目標を「自己財源の確保」「部会活動の充実」としました。

出前講座「(仮称)調布市街づくり条例」

7月7日の定例会で、市職員の方による出前講座「(仮称)調布市街づくり条例」を開催しました。この条例は都市計画マスタープラン「住み続けたい緑につつまれるまち調布」の具体化に向けた街づくりの推進のため、2005年度施行予定で策定されています。主な骨子として 地区計画制度を利用した街づくりを拡充し、住民発意による街づくりの推進 事業者と地域住民の合意形成の仕組みを定め、適正な街づくりを誘導 要綱行政から法規範化を行うことにより、街づくりの方向性をより明確化し、手続きの透明性を高める。(以上、配布資料より抜粋)の3点です。「まちづくり」ではなく「街づくり」という表現から、街で計画されるであろう様々な土地利用や建物などを制度的にコントロールするべく、一定規模の土地取引事業や開発事業に対するルールづくりがポイントになりそうです。

(問い合わせ先：調布市都市整備部街づくり推進課都市政策チーム TEL0424-81-7453)

まち会への取材 多方面から取材依頼がありました

昨年末に共立女子大生1名、今年2月27日に出版会社の第一法規から3名、6月5日に愛知県西尾市の西尾中学校生から3名、6月23日に武蔵大生1名と武蔵野大生1名の皆さんから取材を受けました。共通してまち会のホームページを見ての取材依頼でしたが、当会のホームページに対する評価はかなり高いようです。会の設立経緯、活動目的、活動の現状、これからの活動など、まち会そのものに関する事、そして市民と行政の協働のまちづくりについて、市民自治のあり方など市民と行政のかかわりに関する事や、調布のまちづくりの現状に関する事など多岐に渡っての取材でした。



2004年5月8日(土)調布市文化会館たづくり12階大会議場において「第1回みんなで話そう調布のバリアフリー」ワークショップを開催しました。参加者総数45名により、充実した内容のある意見が活発に交わされました。

会場は調布まちづくりの会の活動ポスター、まちのバリアフリー部会の活動ポスター、部会スタッフによる市内のバリアフリーに関する写真ポスターなどの展示および参考資料の展示、そしてワークショップ用のテーブルを5セット設置という構成でおこなわれました。

ワークショップはグループA~Eの5グループで、各グループには市内の地図と市内9駅の周辺地図が用意され、6~10名の参加者により行われました。各グループともワークショップの予定時間枠を超えてしまうほど、熱心に意見が交わされました。

各グループ発表



グループAのテーブル

【グループA】

グループAは、車椅子利用者が日常的な体験に基づく都市施設の現状に対する意見や、問題解決のために、地域社会がまちのバリアフリーに関心をもち、何をすべきかという意見、さらに様々な立場の人の中でも身体的障害があるにも係わらずその障害が外見的に判断できない人にとって、周辺の人々の理解を得られることが少ないため、ハード面においてもソフト面においてもバリアを感じることが多い、などの意見があった。



グループBのテーブル

【グループB】

グループBでは、地方と東京とのバリア度の違いについての参加者の実感や、駅周辺のアクセシビリティについて、特に移動手段を換える際のスペースを点から線、面への整備の必要性などの意見があった。又、市内の現状道路に対する批判的な意見とともに肯定的な意見もあった。

【グループC】

グループCでは、制度・システム、ソフト(人)、ハード(都市施設の現状)というテーマに分けて話し合い、多様な意見を通して「制度やシステムとハードをつなぐのは人」というメッセージとしてまとめている。



グループCのテーブル

【グループD】

グループDでは、制度、ハード、ソフトなど、まちのバリアフリーの様々な現状を踏まえた上で、個人レベルにおいてもNPOにおいても、また行政においても、より住みやすい街をめざした協働のまちづくりを継続していく大切さについて意見が交わされた。



グループDのテーブル

【グループE】

グループEでは、まちのバリアフリーをソフトバリアフリーとハードバリアに分類して、さらにそれぞれ参加者の体験から掲げたキーワードについて話し合った。特に聴覚に障がいのある人の具体的で貴重な意見があった。



グループEのテーブル

参加して下さった皆さんそれぞれの立場で、日常生活の体験からひきだされた多様で貴重な意見が交わされ、今回のワークショップは一定の成果を生むことが出来ました。まちのバリアフリー部会では、今までの活動や今回のワークショップを踏まえて、行政への施策提言や、市民と行政との協働のまちづくりをはたらきかけていきたいと思っています。

なお、今回のワークショップの内容と参加して下さった皆さんからのアンケートのまとめの詳細を当部会のホームページをご覧ください。

情報バリアフリー部会



障害者基本法改正と日本工業規格①

「国民年金等の一部を改正する法律案」強行採決に揺れた先の国会の中で、5月28日衆議院本会議議決、6月4日公布された「障害者基本法の一部を改正する法律案」（内閣委員長提出、衆法第37号）。

今回の改正中、情報バリアフリー部会の活動に関連する新たな条文が加えられました。それは次の情報バリアフリーに係るものでした。その部分を全文引用します。

「第十九条 国及び地方公共団体は、障害者が円滑に情報を利用し、及びその意思を表示できるようにするため、障害者が利用しやすい電子計算機及びその関連装置その他情報通信機器の普及、電気通信及び放送の役務の利用に関する障害者の利便の増進、障害者に対して情報を提供する施設の整備等が図られるよう必要な施策を講じなければならない。

2 国及び地方公共団体は、行政の情報化及び公共分野における情報通信技術の活用を推進に当たっては、障害者の利用の便宜が図られるように特に配慮しなければならない。

3 電気通信及び放送その他の情報の提供に係る役務の提供並びに電子計算機及びその関連装置その他情報通信機器の製造等を行う事業者は、社会連帯の理念に基づき、当該役務の提供又は当該機器の製造等に当たっては、障害者の利用の便宜を図るよう努めなければならない。」

前2項は国及び地方公共団体への義務規定、3項は事業者に対する努力規定となります。

これで日本でもUSAのリハビリテーション法508条（2001年6月21日に施行。この日以降、連邦政府は、障害者にアクセシブルでないIT機器の購入やWeb作成が許されなくなりました）などに匹敵する法律ができたわけです。ただし、罰則規定はありませんが・・・。

ときを一にしてタイミングよく、作業が進められてきていた技術的なガイドラインとなる「高齢者・障害者等配慮設計指針—情報通信における機器、

ソフトウェア及びサービス」も5月、6月にかけて順次公示されました。来年に向け第四部、第五部（電気通信設備、事務機器に関するもの）の公示も策定作業が進められています。公示された3部作は、

JIS X 8341-1 高齢者・障害者等配慮設計指針—情報通信における機器、ソフトウェア及びサービス—第一部 共通指針 5月20日に公示

JIS X 8341-2 高齢者・障害者等配慮設計指針—情報通信における機器、ソフトウェア及びサービス—第二部：情報処理装置 5月20日に公示

JIS X 8341-3:2004 「高齢者・障害者等配慮設計指針—情報通信における機器、ソフトウェア及びサービス—第三部：ウェブコンテンツ」（いわゆる Web コンテンツ JIS）6月20日に公示

この中で第三部のウェブコンテンツ JIS に関してはパソボラでネットワークしている知人も委員にいたこともあり、昨年秋のパブリックコメントのおり、部会で主宰している障害者 IT コミュニケーションサポートメーリングリスト（ComPortML）にて意思表明を呼びかけ、この JIS 規格策定には間接的にメンバーが参加しました。

「JIS X 8341」（“人に” やさしい）JIS ということで、秒進分歩で革新が進む IT 分野で、先の法改正を実効性のあるものにするため、指針となる技術的な裏づけとなるものです。

第三部において国及び自治体、公共団体のウェブには情報アクセシビリティが必須要件となりました。

高齢者・障害者等には一時的な障害者なども含まれるとともに、ここで云う「ウェブコンテンツ」はいわゆるホームページに留まらず、利用者がウェブブラウザを用いて利用する情報・サービスすべてを含むものとされました。

つまり、インターネット、イントラネット、ウェブ技術を用いた電子文書・電子マニュアル（CD-ROM やパソコンのヘルプ等）、ウェブブラウザを用いて操作する機器なども含まれます。

私が98年、旧まち会の作業過程で作成した調布市初の電子版計画書「調布市都市計画マスタープラン（PDF-CD-R版）」もこれに当ることになります。

（大脇 正昭） （⇒詳細は次号につづく）

MLなどで通年活動しています。 サポートを受けたい障碍のある方、 サポート活動参加を希望される方 随時受付中!! 問合せ mail.owaki@nifty.com 担当：大脇まで

「アースデイ in 調布」で 活躍する「さ～ら」

5月8日(土) 調布駅南口前広場で、「今、この地球を救うには？」をテーマに「アースデイ in 調布」が開催されました。ちょうふ地域通貨さ～らの会では、今回のアースデイに参加を決め、市民に「さ～ら」を利用してもらう機会を得ました。今回、このイベントに参加することで、イベントにおける地域通貨の有効性もある程度実証することができました。

「チャレンジさ～ら」発行

イベントのような不特定多数の人が参加する場合には、手軽に利用できることが必要なので、「チャレンジさ～ら」というイベント用の紙幣を発行しました。この紙幣は、6ヶ月間という期限付きですが、今回のイベント以外でも、市内の「さ～ら」が利用できるお店で使うことができます。



「さ～ら」が利用できる「まめちょ」のお店

アンケートする人も答える人も

会場を訪れた市民で「今、この地球を救うために」というアンケートに協力していただいた方にお礼として「チャレンジさ～ら」をさしあげます。市民の方にイベントへの参加意識を高めていただくとともに、「チャレンジさ～ら」が会場内でも利用できることをアピールしました。

アンケートを取るスタッフとして協力していただける人にもお礼に「チャレンジさ～ら」をさしあげました。



アンケートスタッフに子どもも参加してくれました

紙芝居で子どもにもわかる地域通貨？！

地域通貨はわかりにくいというのが最大の難点でしたが、今回、子どもにも理解できるように紙芝居にしてみました。主人公は、マスコットの「さ～らちゃん」。

今後について

地域通貨部会では、今後とも、「さ～ら」を応援するとともに、まちづくりの会のなかでの活用に軸足を移して、研究を続けていく予定です。今回のイベントでの活用で利用してみたいという方はぜひお声をかけてください。地域通貨は、みんなが幸せになるふしぎな「お金」です。その不思議さを皆さんもぜひ体験してみてください。



紙芝居に見入る子ども達

(文責 尾辻)

おしゃべりサロン「相互塾」(第55回) < 入場無料 >

共催: 調布市



~ 平和の礎展 2004 関連事業 ~

『 市民が語る私の戦争体験 』

老いも若きも大歓迎。Face to Face を大切に!

〔 〕 シベリアでの抑留体験

日 時: 平成16年8月7日(土) 午後2時~4時
場 所: 文化会館 たづくり 9階 研修室



語り手: 佐々 正さん: 「青春の地獄の底から生還できたよこび」
アンゼルスカヤ収容所、現在、世田谷文芸クラブ理事、烏山短歌会代表、

相原 茂さん: 「再びこの様な悲惨な戦争の無い世界を願って」
ムリー地区とホルモリン地区、元国鉄職員

〔 〕 ジャワ島での抑留体験

日 時: 平成16年8月8日(日) 午後2時~4時
場 所: 文化会館 たづくり 10階 1002会議室



語り手: 小山芳雄さん: 「大東亜戦争に参加して」
バンドウン市、現在、日本インドネシアNGOネットワーク、ジャカルタ福祉友の会

大庭定男さん: 「JSP(日本降伏軍人)体験と戦後60年」
バンドンとタンジョンプリオク、現在、軍事史学会、日本英学史学会会員、

【お話しいただく内容については、その概要を裏のページにあります。ご覧下さい】

【 定員: 両日とも当日先着 40人 】



主 催: 特定非営利活動法人 調布まちづくりの会

共 催: 調布市

問合せ先: 森下 政信 (TEL&FAX 83-9993)

調布市生活文化部市民参加推進室文化振興係

(TEL 81-7139)

お話しいただく方々のお話の概要

佐々 正さん：「青春の地獄の底から生還できたよろこび」

爆弾を 抱き戦車に 体当たり せんとて走りし 青春の闇

神州不滅を信じ、ソ連戦車に体当たりしようとして果たせず、捕虜になり、シベリアに送られました。

黒パンとキビのめし、じゃがいもの粗末な食物と、苛酷な炭坑労働のため、多くの戦友が死んでゆきました。

「あやまちを2度とくりかえしません」の原爆碑に書かれた誓いを忘れず、反戦平和のうったえをつづけています。

相原 茂さん：「再びこの様な悲惨な戦争の無い世界を願って」

戦争が終ってからすでに、60年に近くなります。日本はこの間、一度も戦争の無い、世界で数少ない平和な国として、繁栄してきました。

現在は大部分が戦争の知らない世代になってきました。それにひきかえて、シベリア抑留等、戦争の悲惨な体験者も年々少なくなって参りました。戦争は絶対にあってはならない。シベリアでの、厳しい寒さ、劣悪な給与、過酷な労働、偏向な思想教育等少しでも話させていただき、再びこの様な悲惨な戦争の無い世界になるよう願っています。

小山芳雄さん：「大東亜戦争に参加して」

抑留体験

武装解除後バンドウン作業隊として残留 昭和22年4月帰国

対インドネシア進攻の特徴

- ・オランダ350年の植民地压制下で苦しむ民衆向け放送宣伝作戦「インドネシア・ラヤ」...祖国よ起て...
- ・落下傘部隊による石油資源・飛行場確保

インドネシア独立戦争と残留日本兵・独立後の状況

付)ニューブリテン島を中心とする南方作戦

大庭定男さん：「JSP(日本降伏軍人)体験と戦後60年」

私たちはインドネシア・ジャワ島で終戦を迎え、それから約2年間、英軍、オランダ軍の下で強制労働に服した。彼らは我々をJSPとして、戦時捕虜以下の報復的な厳しい取り扱いをした。

戦後、私は商社の駐在員、その後も長くロンドンに駐在、その後も毎年のように英国、オランダに旅行、JSPにつき調査し、講演を行ったりして、共に反省してこそはじめて和解に達することを訴えている。

著書：ジャワ敗戦抑留日誌(竜溪書舎1996)、戦中ロンドン日本語学校(中公新書1996)

「相互塾」これからの予定

	月日	曜日	テーマ(仮題)	語り手
第56回	9月27日	月	最近の少年たちの夢と悩み	松尾直博(東京学芸大学助教授)
第57回	10月25日	〃	地域通貨さ～らと地域コミュニティ	尾辻義和(さ～らの会事務局長)
第58回	11月29日	〃	ありがとう大地!「お惣菜は家族愛」	三室洋子((株)ミムロ取締役)
第59回	12月20日	〃	中高年の山登り	磯田武雄(調布FM事務局長)
第60回	1月24日	〃	愛知万博オリエンテーリング	門伝良男(調布市オリエンテーリング協会会長)

NPO法人 調布まちづくりの会 (新入会歓迎)

〒182-0022 調布市国領町3-10-14 TEL&FAX:0424-88-4022

ホームページ: <http://www.annie.ne.jp/~machikai/>

調布まちづくりの会は「市民の手でまちづくりを」という思いから、その前身は1998年に発足しました。2000年4月には特定非営利活動法人として、新たにスタート。「住み続けたい緑につつまれるまち調布」実現のため、調査研究、提言、情報提供などを行う、誰でもが参加できる開かれた自主活動グループです。市民とのシンポジウムやまち歩きなども行っています。

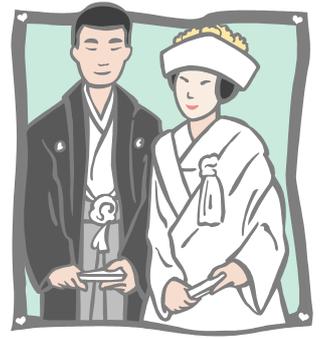


午後のティーサロン

後援：調布エフエム放送

～音楽&映画への語らい～

(第10回)



永遠のマドンナ！ 原 節子

PART 2

～ 小津安二郎作品を中心に

今回は、「安城家の舞踏会」「お嬢さん 乾杯！」「山の音」「青い山脈」と戦後間もない名作を通じて、原節子の気品あふれる映像をたっぷり楽しみました。

今回は、小津安二郎監督による6作品の中から選んで、彼女に演じた役柄を通して、あらためてその美しさをじっくり味わってみたいと思います。

思い出の青春時代を熱く語りましょう。



日時：平成16年10月31日(日)午後2時～4時半

会場：総合福祉センター 4階 視聴覚室

(調布駅南側グリーンホール南隣)

問い合わせ先：島村 0424-82-4307

皆様お誘い合せて是非お立ち寄りください。

【お茶・資料代として300円お願いします】

主催：おしゃべりサロン「相互塾」

連絡先：森下政信(TEL&FAX 83-9993)

E-mail mmasanob@sepia.ocn.ne.jp



～音楽と映画への語らい～のお誘い

過ぎし日々、忘れてしまった時をもう一度再現してくれるものに映画や音楽があります。楽しかったこと、辛かったことなど、人それぞれにいろいろな思い出があると思います。

あの時代にはやったメロディーの数々、あの映画のあのシーンなどなど、このおしゃべりサロンは、ビデオによる映画を観ながら、また音楽を聴きながら、午後のひとときを楽しい語らいの場にしたいと思います。興味のある方は、是非、お立ち寄りください。

原 節子が出演した主な作品：

わが青春に悔いなし	1946	黒澤 明	麦秋	1951	小津安二郎
安城家の舞踏会	1947	吉村公三郎	めし	1951	成瀬巳喜男
お嬢さん乾杯	1949	木下恵介	東京物語	1953	小津安二郎
青い山脈・前後篇	1949	今井 正	秋日和	1960	小津安二郎
晩春	1949	小津安二郎	小早川家の秋	1961	小津安二郎

「午後のティーサロン」・今後の予定

第11回：1月9日(日)、4月10日、7月10日を予定しています。

テーマ候補として、欧州映画、星と月と音楽と、ジェームス・ディーン、など
今までは

- 第1回： 7月13日：ヘップバーンの世界とマンシーニの音楽
- 第2回：10月13日：20世紀が生んだハリウッド最後の女優 マリリン・モンロー
- 第3回： 1月18日：世紀のエンターテイナー フランク・シナトラ
- 第4回： 4月20日：「君の瞳に乾杯！」その瞳をたたえた イングリッド・バーグマン
- 第5回： 7月13日：サスペンス映画の巨匠、映像の発明王 アルフレッド・ヒッチコック
- 第6回：10月12日：懐かしのミュージカル映画(その1) リチャード・ロジャース&オスカー・ハマースタイン2世
- 第7回： 1月25日：“美女ありき” ヴィヴィアン・リー
- 第8回： 4月11日：古き良き西部劇、スクリーンミュージックの名曲
- 第9回： 7月11日：永遠のマドンナ！原 節子

「相互塾」、「午後のティーサロン」、「うたごえサロン」、「数学おあそびサロン」など、サロン造りを一緒に。

「相互塾」がスタートして、今年2月で丸4年になります。人と人のコミュニケーションにFace to Faceの重要さを感じて、サロンづくりを目指していますが、サロンの形式はもちろんのこと、集まる時間も場所も調布の中で、広げて行きたいと思っています。それに手を貸して下さる方、新しいサロン(調布の観光、国際交流、美術観賞など)を試みたいと思われる方を探しています。

おしゃべりサロン「相互塾」、「午後のティーサロン」などの開催案内チラシは、各図書館(分館を含む)、3公民館、総合福祉センター、社会福祉協議会、各地域福祉センター、各児童館・学童クラブ、武者小路実篤記念館、郷土博物館、生涯学習センター、市民センター、電通大総務部、YWCA国領センター、総合体育館、ちょうふだぞう、子ども家庭支援センターすこやか、クッキングハウス、などに置かせていただいています。



主催：特定非営利活動法人 調布まちづくりの会 おしゃべりサロン「相互塾」
〒182-0022 調布市国領3-10-14 TEL&FAX:0424-88-4022

“うたごえサロン”



童謡からシャンソンまで、

アコーディオンとピアノ伴奏で、明るく歌いましょう。

自称音痴の方もどうぞ！ 皆様と一緒に力を合わせて、皆さんの楽しい「うたごえサロン」に！

昔も今もあるうたごえ喫茶“ともしび”を思いだし、歌のにがてな方、好きな方、男、女、多勢で歌いませんか.....。

旧・“カチューシャ”におられた杉本憲一先生のアコーディオンとピアノ演奏に合わせ、「もみじ」、「翼を下さい」、「オールドブラックジョー」等、昔なつかしい曲を思い思いに声を出して歌う楽しいひとときを過ごしましょう。

日時：8月 9日(月)、8月30日(月) 午後2時～4時

9月13日(月)、9月20日(月) 午後2時～4時

10月11日(月)、10月24日(日) 午後2時～4時

【市報でもご案内します】

場所：文化会館たづくり9階 研修室(京王線調布駅南口より徒歩3分)

参加費：800円(お茶・菓子とも) 定員：当日先着48人

アコーディオンとピアノ演奏：
経験豊富な 杉本 憲一先生



この“うたごえサロン”に関する問合せ先：

能勢由緋子 TEL：0424-87-7068

森下 政信 TEL：0424-83-9993

主催：調布まちづくりの会・おしゃべりサロン「相互塾」

担当：森下政信(TEL&FAX 83-9993)

E-mail mmasanob@sepia.ocn.ne.jp

作曲家で、ジャズ演奏も、何でもござれの先生です

「数学おあそびサロン」



昔、どこかに置いてきた数学を、もう一度

取り戻してみたい中高生、集まろう！

自分は、どうもある時から、数学が得意ではなくなった。むしろ、落ちこぼれではないか、と思い悩んでいる方、顔を出して見ませんか。およばずながら、私たちが、お力になれないかと思っています。

数学を不得意にしている人は、分数の計算の理屈がわからなかったとか、因数分解が分からなくてももう諦めたとか、三角関数が分からなくてももう止めたとか、たった一つのことを乗り越えられなくて、そのままになっている場合が多いのではないかと考えています。この「数学おあそびサロン」では、昔に戻って、突破できなくて壁になっていた課題を、まずはクリアして見ましょう、という試みです。

さあ、遠慮なく、参加の申し込みをしてください。

対象：中学生と高校生(受験勉強目的の方はご遠慮下さい)

興味を感じられた大人の方も、どうぞ遊びに来て下さい。大歓迎です。

日時：毎月第3日曜日午後2時～4時を予定しています。

場所：宮の下図書館集会室(TEL：86-5798、第5中学校の近く)

定員：会員制 最大10人(申込順)

会費：なし(ボランティア団体の運営による)



申込先：NPO法人調布まちづくりの会・
おしゃべりサロン「相互塾」

担当：森下政信 TEL&FAX：83-9993

E-mail：mmasanob@sepia.ocn.ne.jp

【先生役の方も求めています。上記申込先まで】

調布に住んで4年、この街に来て感じたこと、とは言え、調布でも仙川周辺以外はほとんど知りませんので、この地域に限ったことにしましょう。まず、最初の印象は雑然としてちょっと汚れた街だなということでしたが、この2,3年で駅周辺も商店街も随分変わりました。駅前広場も整備され、あふれ返っていた自転車も整理されきれいになりました。しかし、それも束の間、再び不法駐輪車で広場も道路も埋まり出し、タバコの吸殻、空き缶等々いろんなゴミがベンチ廻りや広場だけではなく甲州街道の歩道やあちこちの道路にも散乱しています。ゴミ回収方法が変更されて生ゴミの散乱は少なくなりましたが、これらのことはモラルというか市民の意識の問題で、まちの「景観」以前のことだと思います。次に、歩行者に不親切な道路が多いということです。数少ない歩道は狭い上に車のために傾斜面が多く、その上自転車が通る、とても歩けたものではありません。その他の道はほとんどが狭い道ばかりですから、一方通行とか、車の通行禁止路とかが少しでもあればと思います。ついでもう一つ住宅地のこと。最近、工場跡地や農地を転用して10戸前後の建売住宅群があちこちに出来ていますが乱開発と思われるものもあります。おそらく敷地は30坪程度、隣家との間は1m位、各戸にカーポート付、これでは庭の植栽や生垣などは望むべくもありません。並木道が少ないうえに、農地が失われ、住宅地にまで緑が失われて来たら「緑につつまれたまち」のコンセプトもあやぶまれます。そうならないためにも市民一人一人がまちづくりに関心をもつことが大切だと感じています。



会員の谷さん

お知らせ

まち会定例会

- 8/4(水) 19:00~21:00 調布市総合福祉センター2階団体室
 9/8(水) 19:00~21:00 調布市総合福祉センター2階201会議室

おしゃべりサロン相互塾

～市民が語る私の戦争体験～

(1)シベリアでの抑留体験

- 8/7(土) 14:00~16:00 調布市文化会館たづくり9階研修室

(2)ジャワ島での抑留体験

- 8/8(日) 14:00~16:00 調布市文化会館たづくり10階1002学習室

情報バリアフリー定例茶話会

8月は夏休み休会です。

- 9/12(日) 13:00~16:00 調布市総合福祉センター2階ボランティア活動室

まちのバリアフリー定例部会

- 8/4(水) 17:30~28:50 調布市総合福祉センター2階団体室
 9/8(水) 19:00~21:00 調布市総合福祉センター2階201会議室

入会案内：いつでもどなたでも自由に入会できます。入会希望の方はお手数ですが、会費4月～9月半年度分1000円を郵便局にて払い込みください。なお、10月からは年会費2000円をお願いします。

郵便払込口座：調布まちづくりの会 00150-1-136746

編集後記：しばらくニュースレターの発行をお休みにしていましたが、装いを新たに'04夏号を発行します。これからは各部会が編集を持ち回りで担当することになり、今回はまちのバリアフリー部会が編集をしました。不慣れのため読みにくいところもあろうかと思いますがどうかご容赦ください。これからも皆様のご助言をお願いします。

okiz.